

県都大分の交通体系についての提言

「県都大分のまちづくりビジョンフォーラム」より 大分の交通計画の最終目標

1. 公共交通が整備・連携され、誰でも都心部へアクセスしやすい。
2. 県外からの来訪者が、公共交通を用いて容易に市内を移動できる。
3. 2核1モールの個性的、魅力的なまちなみを回遊できる。
4. 都心部はバリアフリーとなっており、歩いて移動しやすい。
5. 都心部エリア内を、公共交通を使って移動することができる。

大分市が、国・県・県警・JR九州・バス事業者・経済界の協力も得て推進。さらに県民・市民との対話を図り交通計画を策定、共有することが肝要。

明確な評価指標を持つ

例：来訪者自家用車利用率を下げる。H20 25.8%→H27 20%
23時30分に中心部から公共交通機関を利用し帰宅できる。

段階的取り組み

① 中期の将来像（5年後）

大分駅が高架化され、都心南北軸の整備が完了するスパン。中央通りの車線減する場合、県庁前古国府線遊歩公園部の拡幅は必須。庄の原佐野線大分川新橋の早期完成等、「選択と集中」に基づく重点投資。バス停やバス路線の再編など、ソフト施策で公共交通重視のまちづくり。米良有料道路無料化の影響に対応する。

バイパス機能整備
バス停・バス路線再編
都市構造インフラの整備

② 長期の将来像（10年後を目途）

庄の原佐野線大分川新橋の開通。顕徳町～農業会館前の大分市道の整備。駅前国道10号、中央通りの交通量の負荷をさらに軽減する。トランジットモール化に向けた社会実験を本格的に開始。

バイパス整備の進展
トランジットモール化へ向けて

③ 超長期の将来像（10年後以降の最終形）

中央通りのトランジットモール化（公共交通、歩行者専用化）、LRT(Light Rail Transit) 導入も視野に入れた都心部交通システムの構築、国道10号の駅前アンダーパス化（駅と中心市街地の回遊性確保）。

公共交通を使いアクセスしやすく
徒歩で回遊できる魅力的なまち実現

本提言が、都心南北軸トータルデザインの設計や、市交通計画の策定の参考となることを要望。